

保護者の皆様へ

「減らそう食品ロス運動」への取組についてお願い

R7. 10. 6 須田中保健給食委員会

保健給食委員会では、総合学習で学んだSDGs活動を継続し、食品ロス削減に向けた給食の残量を減らす呼びかけなどを行っています。

今年度も、次の活動を計画しましたのでご協力をお願いします。

食品ロス削減 フードバンクと連携しよう！

Q「どんな食品を寄付すればいいの？」

A 常温保存可能な食品の寄付をお願いします。

（賞味期限・消費期限がまだあるもの）

お米・お餅・缶詰・瓶詰・乾麺・海苔・お菓子・飲料・レトルト食品

インスタント食品・調味料・食用油・野菜・果物など

*箱・袋詰めのものは未開封品なもの

Q「いつ・どこへ持っていけばいいの？」

A 10月25日（土） 学習発表会の受付でご提出ください。

お子さんを通して届けてくださってもかまいません。

Q「寄付した食品は、どのフードバンクに届けるの？」

A フードバンクかも・たがみへ届ける予定です。



裏面の資料を、参考にしてください！

「フードドライブ～食品ロスを減らそう～」

食品ロス削減

「食品ロス」とは、まだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまう食品のことをいいます。

フードバンクと連携して 推進しましょう！



日本の食品廃棄等は

年間
2,402万トン※1

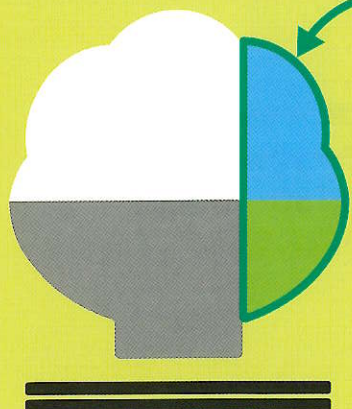
うち食品ロスは
523万トン※2

食品ロスの内訳は

事業系
279万トン(53%)

家庭系
244万トン(47%)

※1 飼料等として有価で取引されるものや、
脱水等による減量分を含む
※2 令和3年度推計(農林水産省・環境省)



日本の食品ロス量は、523万トン。

食品ロスの大量発生は、食べ物を無駄にしていることのほかに、ごみ処理にかかる多額の費用、燃やすことによって地球温暖化の原因になる二酸化炭素の排出増加など、環境への影響もあります。

また、日本は食品の約6割を輸入に頼る一方で多くの食品を食べずに廃棄しています。日本のみならず、世界中に食べものに困っている人がいるのに、食品を捨てているという現状は無視できません。みんなで少しずつでも食品ロスを減らしていきましょう。

フードバンクは食べる幸せを届けます

フードバンクとは、食品企業・団体のみなさまなどから規格外、返品、箱の損傷など、生産・流通・消費などの過程で生じた、様々な理由で販売できなくなった食品の提供を受けて、必要としている人や施設に無償で提供する取組です。

寄付者

食品・食材
印字ミス、
外箱の変形等

ひとり親家庭
生活困窮世帯
こども食堂
支援機関など

受贈者

企業・団体など

フードバンク

ひとり親家庭など



フードバンクとSDGs

誰一人取り残されない。

SDGs17のゴールのうち、フードバンクの活動に大きく関係しているものは5つ。

「1.貧困をなくそう」「2.飢餓をゼロに」

「3.すべての人に健康と福祉を」「12.つくる責任 つかう責任」

「17.パートナーシップで 目標を達成しよう」



食品寄贈 Q&A

Q1

寄贈する食品はどの様に渡したらいいですか？

数量や保管方法等ご相談のうえ、フードバンクの倉庫や事務所宛てに配送をお願いします。少量からでも大歓迎です。尚、輸配送経費はご負担をお願いします。

Q2

生鮮食品、冷蔵・冷凍食品も寄贈できますか？

はい。冷蔵庫・冷凍庫を完備しておりますので安心してご提供ください。

Q3

寄贈食品・輸配送経費の損金算入はできますか？

はい。事前の合意書締結と、認定NPO法人での受入手続きを踏むことで可能になります。